

8月8日(土)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

今年はオンラインで
元気に発行中!

ほぼ

日刊サマーミュージック ONLINE

Hobo Nikkan Summer Muza



【8/7 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団】

©青柳聡

名匠の存在感! 多彩な音色がホールを満たす

ワーグナー芸術の使徒、ブルックナーの泰斗(たいと)・飯守泰次郎の「音楽」に懸命に寄り添い、マエストロの美学を奏でるのは、世代や顔ぶれが変わっても、やはり東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団なのだ——そんな想いを抱かせた喜ばしいライブだった。



第1ヴァイオリン12人のいわゆる12型の編成で「タンホイザー」序曲と「ロマンティック」を聴く。ヴィオラ、ティンパニには練達のゲストも加わっていた。来月80歳を寿ぐ飯守は、要所で彫りの深い響きを求めつつ、決して力まない。テンポの変幻や摩訶不思議な音の浮遊感も魅力となる。連日、個性的な名演奏が続くサマーミュージックだが、名匠の存在感はまた格別だ。

ライブゆえ、表層的にはいろんなことが起こる。けれども、それが音楽を邪魔しない。何が

あっても、素晴らしいコンサートマスター戸澤哲夫に導かれ、アンサンブルを立て直そうとする新世代たちのポジティブな姿勢も聴き手を魅了したのではないか。ティンパニや中低弦が味。もちろん、そうした場面や空間を創ったのはマエストロのぶれない音楽である。

ミュージック川崎シンフォニーホールの空間を満たしたのはオーケストラの咆哮ではなく、多彩な音色(ねいろ)だった。

(奥田佳道/音楽評論家)



©青柳聡

プレトークを務めた池田卓夫(左)、指揮 飯守泰次郎(中央)、コンサートマスター戸澤哲夫(右)

来場者の声

飯守さんの指揮による東京シティ・フィル、美しいタンホイザーと力強いブルックナー、最後まで熱く、素晴らしく、堪能させていただきました。(60代・会社員・toko) / 久しぶりにフルオーケストラの響きを堪能させていただきました。行って良かったと心から思えるコンサートでした。(60代・Kawasaki Anaguma) / プレトークでの戸澤コンマスのお話、自身とオケの飯守先生への信頼度を伺うことができました。ボリューム満点のプログラムの中、オケの生き活きとした表情、ステージ上の一体感や熱気など、演奏のみならず魅力いっぱい公演でした!!(30代・公務員・ダンボ)

今年のサマーミュージックは 生音+生配信!

アーカイブ配信は8/31まで
何度でも
ご視聴可能です!

↓こちらからどうぞ↓



#サマーミュージックで投稿してください!

Twitter : @summer_muza

Facebook : @kawasaki.sym.hall

Instagram : @muzakawasaki

エンジョイ! 川崎!!

Enjoy Kawasaki パートナーショップのご紹介

正統派「ホール入り前」の
はらごしらえ

今年のサマーミュージックは、感染症対策のためショップ等での販売が中止になっており、ホール2階ホワイエのドリンクコーナーもお休み。

そんな時、会場入り前にオススメなのは、駅ビル・アトレ3階ワインの名店エノテカの軽食。今日は

「チキンのトマト煮込みプレート」のランチをグラスワインとともに(消費税込1,100円)。ミニサラダ、コーンスープもついてバランス良好、味もよし。最後にライスをトマトソースに絡めてリゾット風に。何よりエキナカの手軽さと、お店のワインボトルの壁を眺めながら、ホッと一息つける本物感がうれしい。(事業・ヒロシ)



～本日ご紹介したお店～

エノテカ

アトレ川崎3F

